大分県立
芸術文化
短期大学
OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS AND CULTURE

大学広報誌 エピストゥラ

Epistula

spring 2015

特集

美術・音楽・国際・情コミュ

全4学科が行った1年間の活動をお知らせします!

[表紙モデル]国際総合学科:劉盼(りゅうはん)さん、晏佳雯(あんかぶん)さん、史中意(しちゅうい)さん、曹舒儀(そうしょぎ)さん、熊佳玉(ゆーかぎょく)さん、郭燕妮(かくえんに)さん

vol.38

大分県立芸術文化短期大学広報誌「Epistula」2015年3月20日発行 通巻38号

エピストゥラ:古典ラテン語で"手紙"という意味です。広報室からみなさまへ、芸文短大の"いま"を伝える手紙をお届けします。

美術科

大分県立美術館今春開館！

この春開館する大分県立美術館開館にあわせ、
美術科ではさまざまな取り組みを行いました。

新見隆氏による特別講義を行いました

大分県立美術館館長の新見隆氏による特別講義を行いました。新見氏は「芸術は自由。どんな異質なものでも、それは個性と認められる。だからこそ、芸術家は自分がどうして作品を創るのか、どう生きるのかということを決めていかなければならない」と芸術家を目指すうえでの心構えなどを話しました。また、展示する作品をはじめ、県立美術館に関するさまざまな構想に、学生たちは大いに期待を寄せていました。

県立美術館開館に向けての課題に取り組みました

専攻科造形専攻ビジュアルデザインコースの1年生が、県立美術館のロゴ「OPAM」を考案したデザイナー・工藤青石さんの指導を受けながら「県立美術館開館に向けて如何に県民に訪れてもらうか」という課題に取り組みました。前期期間中制作を行い、最終日にプレゼンテーションを行った学生たちに、工藤さんからは「今回の美術館はある意味で、実験の場。想像しなかった、おもしろい提案がどんどん活かされる場であって欲しい」との言葉が寄せられました。

「OPAM誕生祭」で学生がプレゼンテーションを実施しました

県立美術館に向けての課題に取り組んだ学生らが、竣工間もない県立美術館1階アトリウムにて、プレゼンテーションを行いました。新見館長からは「どのプレゼンも、十分に調査し、目の付け所もよく、素晴らしい内容に仕上がっている」と評価をいただきました。また、「OPAM誕生祭」期間中、学生たちの企画が県立美術館2階にパネル展示されました。

おおいたトイレンナーレプレイベント

「ようを＋アートプロジェクト」

平成27年夏に開催される、大分市中心市街地のトイレを舞台にしたアートフェスティバル「おおいたトイレンナーレ」のプレイベントとして「ようを＋アートプロジェクト」を実施。「変身！トイレ!!」、「イズミ博覧会」、「トイレ、わたし／みんな、アート」の3つのプログラムを展開しました。これらのイベントを行うことで、〝汚い・くさい〟とマイナスイメージの多かったトイレという存在イメージが変わったのではないかと思います。平成27年の「おおいたトイレンナーレ」に向け、ますます〝トイレ＝アート〟が盛り上がっていけばと思います。

ワークショップ「変身！トイレ!!」

メディアデザインの学生らの指導の元、大分大学附属小学校4年生のみなさんが造形作品に挑戦。d-torso模型でトイレの型を作った後、粘土やビーズ、貝殻などで装飾をしました。子供の感覚ならではの独創的なトイレが完成！

イズミ博覧会

「変身！トイレ!!」で、大分大学付属小学校の生徒さんたちが制作した〝トイレ〟の作品展を、i i c h i k o総合文化センターアトリウムプラザで開催しました。キラキラ可愛らしいもの、便器の中にジャングルの世界を表現したもの、傾いて水が溢れているものなど、個性溢れるトイレに、訪れた方々もじっくりと見入っていました。

シンポジウム「トイレ、わたし／みんな、アート」

大分大学教育福祉科学部准教授 田中修二氏をモデレーターとしてお招きし、「変身！トイレ!!」で作品づくりに参加した小学生代表3名と、このプロジェクトに参加した専攻科造形専攻の田中愛理さん、森山楓さんと、メディアデザインの藤岡さくらさんが〝トイレとアート〟について意見交換を行いました。本学学生たちは、個性あふれる作品の数々と、しっかりと考えを持って自分の作品についてPRを行う小学生たちに良い刺激を受けたようでした。

第53回美術科「卒業・修了制作展」を開催しました

「卒業・修了制作展」は、本学を卒業・修了する学生たちによる、毎年恒例の作品展です。今年度は、前半に美術専攻、後半にデザイン専攻と2回に分けて実施しました。美術専攻学生による作品展では、油画、日本画、アクリル画、ミクストメディア、彫刻といった作品を展示。またデザイン専攻学生による作品展では、ビジュアルデザインの商品PRのパッケージデザイン、メディアデザインの3Dアニメーション、イラストレーションやグラフィックアート、プロダクトデザインのユニバーサルデザインの空間提案など、バリエーションに富んだ内容となりました。どちらも、これまでの学習の成果と創作研究の集大成となる、見ごたえのあるものとなりました。

作品が採用・商品化されました！

授業での制作やコンペ提出で、見事作品が採用・商品化されたものが数多くありました。

【採用・商品化となった作品】●季刊誌humhum（2013年より発行継続中）●平成26年度 自動車税納期内納付広報用ポスター&チラシ●街なかにぎわいプランチラシ●大分合同新聞納涼花火シリーズ新聞広告&うちわ●赤い羽根寄付金付きボールペン

Cover of Epistula vol.37

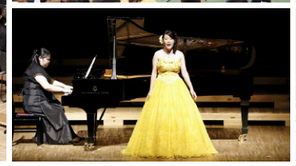
本広報誌エピストゥラは、各学科の“頑張っている学生”が表紙を飾りました。美術科からは、上尾若菜さん、松本江里加さん、柴田彩愛さん、仲戸萌さん、東遥佳さん、田中愛理さんに登場してもらいました。6人は「ようを＋アートプロジェクト」で様々な活動実施。撮影時は、d-torso模型で作った座れるトイレを持つ、というユニークなものになりました。

音楽科

多彩なコンサート

音楽科では「1回の舞台経験は、100回の練習に勝る」をモットーに、数々の演奏会を開催しています。また、地方の小中学校や文化ホールでの演奏会など、地域に密着した活動も行っています。

《今年度開催した主なコンサート》若さあふれるコンサート（音）／豊後大野市特別演奏会（エイトピアおおの）／第50回定期演奏会（グ）／地域巡回演奏会（中津市立如水小学校・杵築市立護江小学校）／ピアノコース演奏会（音）／管弦打コース演奏会（音）／パーカッショングループ／声楽コース演奏会（音）／ミレニアムコンサート（音）／オペラ『ヘンゼルとグレーテル』（本学小ホール）ほか



※グ=iichikoグランシアタ、音=iichiko音の泉ホール

オープンキャンパスを実施しました

本学に入学を希望する生徒さんを対象とした「オープンキャンパス」を、7月と9月に実施しました。ミニコンサートでは、学生によるピアノ演奏、器楽アンサンブル、オペラハイライトなどを披露しました。素晴らしい演奏と華やかな舞台に、会場を埋め尽くした生徒さんたちは感動の渦に包まれていました。

新人演奏会

大学推薦を受けた学生たちが、次の新人演奏会に出演が決定しました。【読売新聞】齊藤芙友子（Sop.）／吉元優喜乃（Pf.）【アルゲリッチ音楽祭】佐藤克彦（Ten.）／蒲原光（Pf.）【日本調律師協会九州支部】中川千尋（Pf.）

公開研究発表

7月初旬、公開研究発表会を行いました。公開研究発表会は、専攻科音楽専攻のカリキュラムに設定されている科目です。学士取得希望者は、学位授与機構へ提出するビデオ撮りも兼ねて行われます。

【出演】蒲原光（Pf.）／黒瀬桃子（Pf.）／野﨑圭亮（Pf.）／佐藤蘭（Vc.）／中村有里（Fl.）／安倍麻優（Sop.）／柴田悠花（Sop.）／齊藤芙友子（Sop.）／池田眞惟（Sop.）／植松浩美（Pf.）／姫野華奈（Pf.）／森永百美子（Pf.）／吉元優喜乃（Pf.）／上村梨世（Perc.）／東亜里紗（Mba.）／須山恵理香（Sop.）／中島星七（Sop.）／藤延一平（Ten.）

芸短オープンカレッジ開講

県民のみなさまへ向けた公開講座「芸短オープンカレッジ」。声楽個人・グループレッスンをはじめ、西洋音楽史や音楽理論、ピアノ講座など、本学が誇る教授陣たちによる講座を開講しました。

甲斐栄次郎氏コンサート&トーク『オペラへの道』を開催しました

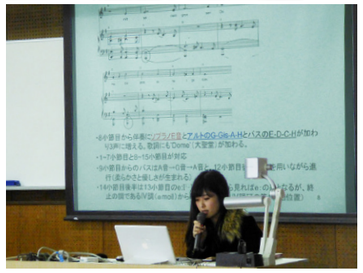
本学人文棟大講義室にて、バリトン歌手の甲斐栄次郎氏を迎え、コンサート&トーク『オペラへの道』を開催しました。甲斐氏は、東京藝術大学、同大学院を修了し、10年間にわたり、世界最高峰であるウィーン国立歌劇場の専属ソリストを務められました。オペラで迫力ある歌声を披露したほか、行天准教授とのトークで、生い立ち、歌を志した契機、大学での学生生活、アメリカやイタリアでの修業、そしてウィーンでの専属オペラ歌手としての経験をお話しいただきました。

卒業研究・修了研究発表会

2月初旬、音楽科理論コースの卒業研究発表と専攻科の修了研究発表を行いました。卒業研究は、学位審査を含んでいます。

《卒業研究》河野里咲／フィンランドの教育と音楽～教育制度とメタル音楽について～

《修了研究》森迫麻衣／シューマン研究～歌曲集『詩人の恋』より「第6曲 Im Rhein, im heiligen Strome」と「第7曲 Ich grolle nicht」の分析を例に～



「シューベルトのコンサート」を開催しました

本学で長年にわたりピアノ特講の講師を務められている、東京藝術大学名誉教授の辛島輝治先生の喜寿を記念し、本学小ホールにて「シューベルトのコンサート」を開催しました。同コンサートは、室内楽、ソロ等を交えて行うコンサートで、辛島先生のライフワークの一つとなっています。当日は、声楽コースから宮本特任教授、愛甲准教授、行天准教授、管弦打コースから川瀬教授らも参加し、美しいシューベルトの調べを披露しました。

卒業・修了演奏会

3月21日と22日、成績優秀者による「卒業演奏会・修了演奏会」を開催しました。

【卒業演奏会】

〈声楽〉泉紗貴 歌劇『コシ・ファン・トゥッテ』より〝岩のように動かずに〟：モーツァルト他／井下聡子 歌劇『魔笛』より〝ああ、恐れおののかなくてもよいのです。我が子よ！〟：モーツァルト他／佐藤克彦 歌劇『フィガロの結婚』より〝若いうちは〟：モーツァルト他／牧山亮 歌劇『魔笛』より〝おお、イシスとオジリスの神よ〟：モーツァルト他

〈ピアノ〉古賀詩央梨 幼子イエスに注ぐ20のまなざしより第15番「幼子イエスの口づけ」：メシアン／朝永真矢 ピアノソナタより第3楽章「コラールと変奏」：デュティユー／中川千尋 スペイン狂詩曲：リスト／藤田祥 映像第1集より「水の反映」「運動」：ドビュッシー／星子奈々 バラード第2番：リスト

〈管弦打〉大上菜里 アルトサクソフォーンとピアノのための狂詩曲より第2、3楽章：ウエニャン／大久保美有 イマージュ：ボザ／小川愛優美 演奏会用小品：モンプラン／柴田かおり 頂上にて：ボザ／田中佳穂 演奏会用小品第1番作品11：ブラント

【修了演奏会】

〈声楽〉安倍麻優 歌劇『リゴレット』より〝慕わしい人の名は〟：ヴェルディ他／齊藤芙友子 歌劇『ハムレット』より〝今、私の歌を聴いて……！〟：トマ他／須山恵理香 歌劇『連隊の娘』より〝お金も地位も心は変えられないわ〟：ドニゼッティ他／中島星七 歌劇『ドン ジョヴァンニ』より〝ひどい人ですって？ いいえ！あなた！〟：モーツァルト他

〈ピアノ〉蒲原光 組曲「1922年」作品26：ヒンデミット／野崎圭亮 イベリア第1集より「エヴォカシオン」「港」「セヴィーリャの聖体祭」：アルベニス／姫野華奈 バラード第4番作品52：ショパン／吉元優喜乃 ピアノソナタ作品26より第2、3、4楽章：バーバー

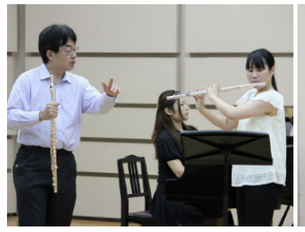
〈管弦打〉上村梨世 打楽器協奏曲より第3、4楽章：ジョリヴェ／中村有里 フルートとピアノのためのソナタ作品23（1部省略）：リーバーマン／東亜里紗 マーリンⅡ：トーマス

〈作曲〉安倍和佳 「僕らは星のかけら」（混声合唱曲）

著名な講師による「特別講座」

「特別講座」では、世界的に活躍する著名な音楽家をはじめ、日本を代表する演奏家の方々、東京藝術大学の先生方をお招きし、公開レッスンを実施しています。

《今年度実施した主な特別講座》**〈声楽〉**小林道夫、瀬山詠子、佐藤美枝子 **〈フルート〉**甲斐雅之 **〈ヴィオラ〉**小野富士 **〈ティンパニー〉**植松透 ※敬称略



Cover of Epistula vol.36

本広報誌エピストゥラは、各学科の“頑張っている学生”が表紙を飾りました。音楽科からは、齊藤芙友子さん、中島星七さん、須山恵理香さん、池田眞惟さん、井下聡子さん、佐藤克彦さん、牧山亮さん、藤延一平さんに登場してもらいました。8人は「第50回定期演奏会」でソリストを務めました。撮影は、本学小ホールで行いました。

情報コミュニケーション学科

学習の成果を広く公開！

情報コミュニケーション学科では、日頃の学習・研究の成果を一般の方々に公開する場を設けています。公開発表には、高校生のみなさん、企業・団体の方々など、毎回多くの方々が聴講に訪れています。

地域活動フォーラム

学んだことを地域で活かし、地域で活動する事で学びの意味を考える取り組み〝サービスラーニング〟で行ってきた活動を報告しました。〝サービスラーニング〟では、地域活動を行うだけでなく「活動の意味を学ぶ」・「更なる活動を考える」・「活動を発信し伝える」ことを一連のプロセスとし、体験をスキルに変える能力育成を行っています。

〈発表内容〉あしなが学生募金活動／森林セラピー事業／府内学生フェスタ／鶴崎清正公二十三夜祭／臼杵情報発信事業／まちCOLORカフェ／ギネスチャレンジ・アートスネイクプロジェクト／竹田情報発信事業／大分青年会議所（七夕祭り他）／赤い羽根応援プロジェクト／大分わかもの映画祭／日韓次世代交流／子どもキャンプ／大分国際車いすマラソン

社会調査法発表会

4～5名でグループを作り、自らテーマを決めてアンケートなどを実施、結果を発表しました。学生たちが〝いま考える、いま思う〟事に着目した、興味深い内容でした。

〈発表内容〉第一印象／駅ビルと商店街／兄弟一人っ子／名前DQNネームについての調査／結婚に関するアンケート／音楽に関するアンケート／ひとりの行動範囲について／恋愛事情／芸短生の恋愛傾向／ヤンキーのゆとり化／コンビニエンスストア／方言について

卒業研究発表会

2年生が4月より各自、またはグループで1年間にわたって取り組んできた課題について発表を行いました。演題は全部で67項目。苦労して書きあげた論文を要約し、10分間という短い時間の中でいかに分かりやすく伝えるか、というプレゼンテーション力が試されました。また、質疑応答では突き詰めた質問が出るなど、聞きごたえのある内容となりました。

〈発表内容の一部〉

「メディア」ラジオの現状と未来／映像による観光名所紹介～宇佐神宮～／新県立美術館の紹介／岐路に立つ府内五番街／日韓学生の映画制作／大分まちなかTVの発展／大分わかもの映画祭「情報科学」デジタルものづくりに関する研究／情報ネットワークの安全性に関する研究／進化するスマートフォンアプリ／BGMが映像の雰囲気をどう変えるか／人はどうして道に迷ってしまうのか「心理学」メディア接触と非現実感／先行情報は味覚にどう影響するのか／子どもの貧困の現状と対策／きょうだい関係におけるコンプレックス／読み聞かせ方による絵本の理解度の違い／子育て支援の現状と課題／吃音児における親の養育態度の重要性「社会学」ブラック企業について／臼杵市での活動と情報発信／大分市森林セラピー事業について／大分市商店街の活性化について考える／鶴崎のまちおこしについて／いじめ自殺事件の判例からみる「いじめ」の責任追及／日本における外国人労働者制度／食品の安全性について／日本の障がい者スポーツの現状と今後の課題

地域活動フォーラムを〝聴講した方々の感想〟

聴講に訪れた高校生や企業の方からは、次のような感想をいただきました！

★細部まで説明されて、分かりやすく理解できました
★地域の方々とふれあい、何かを作り上げていくことの楽しさや大切さを知ることができました
★みんなしっかりと活動していて、内容をうまくまとめ、自分たちの言葉で伝えていたのが印象的でした
★これからも、若い力で街を賑やかにしてほしい
★写真をふんだんに使い、興味深くみることができました

etc…

街の魅力を写真で伝える“地撮り”を行いました

参加者が街に出て写真を撮影。撮った写真をツイッターで発信し、一つのホームページにまとめるという試み〝地撮り〟を、竹田市と臼杵市で行いました。この〝地撮り〟イベントは、昨年度から取り組んでいるもので、今年度は、地図上にリアルタイムで撮影位置と写真を表示するプログラムを作り、お互いの投稿を見ながら〝地撮り〟を行う、という方法をとりました。活動拠点となった空き店舗活用元岡本屋に大型ディスプレイを設置し投稿の様子を町の人に見てもらうなどして、訪れた方々にも楽しんでもらいました。このプログラムは、ホームページ「たけたみつけた」で見ることができます。

ものづくりの楽しさを伝えています！

凍田和美特任教授をはじめ、本学もものづくりサークルメンバー〝ものづくり女子隊〟らが、公民館や文化施設、小・中学校などさまざまな場所で「デジタルものづくり講座」を実施しています。これは、子どもたちに「デジタルものづくり」の楽しさを知ってもらうことを目的としたもので、カッティングマシーンを使ったオリジナルシールづくりや、3Dモデリングソフトによる3次元の動物制作などを行っています。また、ファブラボ大分、ハイパーネットワーク社会研究所、大分市情報学習センターなどと連携してイベントなども開催しています。

『創造おおいた』でサービスラーニングが紹介されました

公益財団法人大分県産業創造機構が発行する情報誌『創造おおいた』で、情報コミュニケーション学科 吉良伸一教授が担当する「サービスラーニング」が紹介されました。「研究室・研究グループ」を紹介するページに、サービスラーニングについての意図や活動内容などが詳しく掲載されました。

研究室・研究グループ紹介

学んだことを地域で活かし、地域で活動して学びの意味を考えるサービスラーニング

～吉良研究室～

吉良 伸一 准教授

取り組みは無限大！サービスラーニング

学んだことを地域で活かし、地域で活動する事で学びの意味を考える〝サービスラーニング〟は、アメリカで確立された教育方法で、本学では全学で単位化して実施しています。活動内容は、まちづくりのイベントの企画・運営参加をはじめ、環境問題に取り組んだ清掃活動、過疎化・高齢化対策を考える農家民泊や情報発信事業など、多岐にわたっています。机上だけでなく、学外へ出て行き、外部の方たちと交流することで、学生たちは大きく成長しています。

サルの行動観察を行っています

「心理学研究法」では、高崎山自然動物園でニホンザルの行動観察を行っています。個体追跡法といって、1匹のサルを選び動画で撮影。多くの行動サンプルを集めた後、特徴的な映像を選んでサルの行動を分析していきます。こうして、サル社会の親子関係や仲間関係、上下関係、そしてコミュニケーションの特性を探っていきます。

Cover of Epistula vol.35

本広報誌エピストゥラは、各学科の〝頑張っている学生〟が表紙を飾りました。情報コミュニケーション学科からは、岡田優希さん、佐藤瞳海さん、原田夏帆さん、竹尾茉由さん、吉田彩乃さん、森彩奈さん、安永菜月さん、牧野彩夏さんに登場してもらいました。8人は〝ものづくり女子隊〟メンバーで、デジタルものづくりの楽しさを伝える活動を行いました。3Dプリンタを囲み、賑やかな撮影となりました。

国際総合学科

海外からの訪問団が多く訪れました

今年度は、海外から多くの訪問団が本学を訪れ、国際総合学科の学生らと交流を深めました。実際に海外を訪問する海外語学実習のみならず、海外へ行かずとも国際交流が図れるというのはとても貴重なことであり、学生たちにとって良い経験となりました。

「大韓民国大邱広域市学生訪問団」が来学しました

韓国大邱市にある『嶺南理工大学』の学生らが来学しました。交流会では、本学代表の学生が韓国語で挨拶と学校紹介を行ってから、学生同士の意見交換会を行いました。趣味や好きな芸能人、スポーツといった若者らしい話題から、軍隊のことまで、とても盛り上がって話をしました。あっという間の時間でしたが、とても有意義な時間が過ごせました。

インドの大学生が来学しました

「JENESYS」（ジェネシス）という外務省の青少年交流事業の一環で、外国の若者が日本の同世代の学校を訪問し、日本の文化や伝統を学ぶことを目的に、インドの大学生が来学しました。交流会では、国際総合学科の学生が「日本の文化、大分の文化」について英語でのプレゼンテーションを行い、日本の四季折々の文化と大分のイベントや名物を紹介しました。インドの大学生からは、インドの伝統の歌や踊りの披露がありました。また、ホルトホール内にある大分ケーブルテレビの番組に出演し、日本の印象や本学での交流の感想などを語りました。

「星月組合」との交流会を行いました

武漢音楽学院の卒業生4人組（二胡、揚琴、コンガ、チェロ）による国家一級の演奏家「星月組合」との交流会を行いました。周鳴准教授ナビゲートのもと、中国からの留学生が通訳を担当し、武漢市についての紹介をはじめ、メンバーや彼女たちが演奏する楽器の説明がありました。中国の代表曲「花好月園」と、中国でよく流れているという日本の名曲「北国の春」が披露され、中国独特の美しい音色に、学生たちもじっくりと聞き入っていました。

「第5回 大分国際車いすマラソン大会交流イベント ～外国人選手とTALK SHOW～」を開催しました

ジュリー・ヌートバー准教授が企画・実施する、毎年恒例のイベントで、「大分国際車いすマラソン大会」の時期に合わせて行っています。今回は、車いすプロアスリートの廣道純選手コーディネートによって、ローズマリー・リトル選手（オーストラリア）、ブラドリー・レイ選手（アメリカ）、リチャード・コルマン選手（オーストラリア）をお招きし、車いす競技や大会について語っていただきました。

海外語学実習でボランティア活動を体験しています！

カリフォルニア大学デイビス校で行われる海外語学実習では、サービスラーニングとしてボランティア活動を行う「海外ボランティア実習」を実施しています。生活弱者支援施設での食事作りや配膳をはじめ、老人ホームで日本の歌を歌ったり、英語で自己紹介や患者さんと話をしたり、折り紙を教えるなどして交流を深めました。また、心の病気をもつ子供たちが通う特別支援小学校では、保護者の方や先生と一緒に農作業を行いました。

外部講師による魅力ある講義を実施

国際総合学科では、さまざまな分野で活躍するプロフェッショナルによる講義を実施しています。

『由布院 玉の湯』代表取締役会長 溝口薫平氏

“由布院まちづくり”の立役者として知られる溝口氏が、『亀の井別荘』代表取締役会長中谷健太郎氏らとともに魅力ある由布院をつくりあげるべく尽力してきた経緯を話し、由布院の魅力について語りました。その中で、積極的に行動を起こし、有言実行することの大切さを伝えてくれました。

『株式会社クリエイツ』専務取締役 森北実氏、後藤像二氏

本学の卒業生である森氏と、マークエステル画伯の作品に魅せられ後援会を設立した後藤氏が、「日本の伝統文化」で“古事記に親しむ講演会”を実施しました。普段あまり触れる機会のない“古事記”について、その奥深さと、現在に引き継がれている大切なメッセージを受け取ることができる貴重な授業となりました。

別府大学講師 加藤多嘉子氏

多くの外国人たちに日本語を教える傍ら、イベント時の通訳や大分県内に在住・滞在する外国人を支援する団体で活動を行う加藤氏に、講義「国際的な地域活動を楽しむ人生」を行っていただきました。本学の卒業生でもある加藤氏のパワーあふれるお話に、多くの学生が“何でもチャレンジしよう！”と前向きな気持ちになりました。

留学生＆周鳴准教授のお別れ会を行いました

昨年の3月より中国・江漢大学から留学していた晏佳雯（あんかぶん）さん、郭燕妮（かくえんに）さん、史中意（しちゅうい）さん、曹舒儀（そうしょぎ）さん、熊佳玉（ゆーかぎょく）さん、劉盼（りゅうはん）さんの6人と、本学にて中国語教育を担当してくださった周鳴准教授のお別れ会を行いました。みんなで乾杯をした後、お菓子やケーキを食べながら、想い出話に花を咲かせました。入野学科長は「1年間、本当に一生懸命がんばりました。短い期間でしたが、日本での事、芸文短大での事を忘れないで下さい。そして、日本と中国の架け橋となってもらいたいと思います」と、これまでの留学生たちのがんばりを称え、そしてエールを送りました。

留学生 晏佳雯さんがスピーチコンテストで優秀賞を獲得しました

留学生によるスピーチコンテスト「OITA学生提言フェスタ」で、本学留学生 晏佳雯（あんかぶん）さんが、優秀賞を獲得しました。スピーチでは、晏さんが電車での通学途中に感じた出来事を取り上げました。空席があるのに座らない光景を不思議に思い、調べていくにつれ「安心距離」という言葉を知り、改めて日本と中国の文化の違いを感じたそうです。晏さんは、「今回受賞できたのは、丁寧に指導して下さった国際総合学科の先生方のおかげだと思います。これからも頑張ります」と話しました。

著名なゲストが登場！「ヨーロッパ講座」

ヨーロッパ各国の歴史や文化、現在の姿を、映像や音楽などを用いながら紹介する「ヨーロッパ講座」では、著名なゲストにお越しいただいています。今年度は、セルダヘイ駐日ハンガリー大使と、大分県立美術館（OPAM）の新見隆館長に講演を行っていただきました。セルダヘイ大使は、ハンガリーの地理や歴史、自然をはじめ、ご自身の生い立ちを通訳を介さず語ってくれました。また新見隆館長は、ウィーンの芸術と日本の芸術との共通点や、4月に開館する大分県立美術館の構造・空間の説明、今後の展覧会などについて話してくれました。

竹田キャンパス通信

ここ竹田キャンパスも丸5年が過ぎようとしています。竹田市の事業として、先日からはプールに温泉をためた芹川ドジョウの養殖も始まりました。試食会も盛大に行われ、近所の幼稚園生も参加して美味しくドジョウをいただきました。特にから揚げが美味しかったですね。また、最近は近所のお寺に頼まれたカルタの制作をしております。仏教用語が多く難しい文言もありますが、その文言に合わせて絵を描いていく、なかなか楽しいもんです。ゆっくりとではありますが、地域と触れ合うのんびりとしたキャンパスになっております。

▶美術科非常勤講師 前田亮二

《今年度の主な活動内容》

竹田キャンパスは、廃校となっていた下竹田小学校を利用した創作活動の場です。本学で染色を指導している非常勤講師の前田亮二講師が常駐し制作活動を行う傍ら、地域と密着したアートイベントを企画・実施しています。

◎ワークショップ(エコバッグ・陶芸・ステンシル)◎作品展示販売◎サークル・ゼミ合宿◎イベント参加◎施設案内◎地域交流会など

サービスラーニング報告

「大学で学んだことを地域で生かし、地域で活動することで学びの意義を知る」ことを目的としたサービスラーニング。"単なるボランティア"では終わらない、自主性・論理性・協調性のある『社会人力』を育成するプログラムを組んでいます。今回は、サービスラーニングに参加した学生の感想をお伝えします。

◉ギネスに挑戦!アートプロジェクト

アートスネイクで世界記録を作るということに興味があり参加しました。今回は見事に世界記録に認定され、大変感動しました。大分市が世界記録を樹立することにより、大分市が活性化し、地域の子どもたちや市民が参加することによって地域の密着度が高まった活動であったと思いました。また、芸文短大の学生が地域活動を行っていることをアピールできたと思います。私自身、これだけ長く携わってきたサービスラーニングは初めてだったので、自分の継続する力を知ることができ、これから地域活動を行う上での大きな糧となったと思います。

(情報コミュニケーション学科 星野里緒菜)

◉おおいた夢色音楽祭

以前から興味があり、この活動に参加しました。当日は、受付やスタンプラリー参加者の応対、野外ステージ周辺のゴミ拾いなどを行いました。大分市は西洋音楽発祥の地であるということで、大分市が音楽にあふれ、道行く人が心和むような「音楽のまち大分」の実現を目的としていると知りました。このようなイベントをすることで大分の歴史を知る良い機会になるし、街の活性化にもつながってくると思います。ボランティアをして運営の大変さや、自分で何かをすることの難しさを知りました。ボランティアをする前よりも成長することができたと感じています。

(情報コミュニケーション学科 黒住彩加)

◉コガネグモ選手権in木佐上

この活動は、自分の住んでいる地域で開催されている大会であり、小学生の頃に参加したこともある行事だったので、これまでの恩返しの意味と、地域行事のサポートをしたいと思い参加しました。参加してみて、改めて地域の方々の力で楽しいことが行われていることを知ったので、もっと地域行事に参加し、手伝えることがあれば参加したいと思いました。木佐上は田舎で不便なので、自分自身少し地域離れをしていたのですが、今回関わってみて、私はこの地域に育てられたんだということを思い出しました。自分にできることは少ないですが、少しずつでも活動をして地域に貢献したいと考えています。

(情報コミュニケーション学科 峯鈴奈)

◉佐伯スパイスプロジェクト ～学生カフェ～

「地域社会特講」で、佐伯の街づくりについて話しを聞き興味をもったのと、佐伯のマリンレモンと大分市のはちみつのコラボレーション商品で、離れた市町村同士が繋がる、ということに魅力を感じたので参加しました。私は、マドレーヌとレモンスカッシュの売り子と、佐伯の街や山などの情報発信を行いました。販売では、最初は売れるか心配でしたが、呼びかけていると周りの人たちからの応援もあり、頑張ることができました。売る時の声のかけ方など、お客さんが快く買って下さる方法を学びたいと思いました。この活動で、人の優しさや温かさに触れることができたので良かったです。

(情報コミュニケーション学科 高田歩)

学内ギャラリー

学内ギャラリーでは、美術科の学生を中心に個々がテーマを決めて作り上げた作品を展示しています。学外の方も観覧可能ということもあり、作品を多くの方々に見ていただけるチャンスの場ともなっています。

今年度の展示内容

プロダクトデザインコースレビュー／ビジュアルデザイン1年次課題作品展／久保です。／三人展～ありのまま～／mitsumari／第4回美術作品合同展／竹の造形習作展／「流」／卒業修了収蔵作品展／清楓展／○展／miNomushi／「さ」／ひかりのかたち／グループ展／Who(芙)You(由)Me(美)／ひかりの雨展／眺望／奇韻静動strenge inside／げんキッズ／グループ展／Saori's Art Works／わ。展

学友会情報

今年度の学友会では、"もっともっと芸短を盛り上げよう!"と様々な取り組みを行ってきました。本学のメインイベントである芸短祭では、キンタローさんをゲストにお招きし、学外からも多くの方々にお越しいただき、たいへん盛り上がりました。来年度からまた新しいメンバーで学友会がスタートします。1年間、本当にありがとうございました。そしてこれからもヨロシクお願いします☆

日々是精進

日頃の努力が、賞の受賞や商品化など結果に繋がった学生たち。今年度の活躍の一部をご紹介します。

【美術科】

●県産菓子「恋する香ぼす」パッケージデザイン／池部栞奈●自動車税啓発ポスター&チラシ／首藤優佳、大石葉月●街なかにぎわいプランチラシ／高瀬七海●大分駅地下道アート作品／上野莉子、熊川美咲、前畑侑紀ほか●「第6回九州・沖縄地区学生デザイン展」〈最優秀賞〉川野史織、小﨑祐維、首藤紗映香〈フリーペーパーhum hum制作〉、〈作品賞〉西本美穂〈防災用教本「もしもマニュアル」〉●大分合同新聞納涼花火シリーズ新聞広告&うちわ／ビジュアルデザインコース学生●富山デザインフェア「パッケージデザインコンペティション」特別賞／大石葉月●「若者によるエコメッセージ」ポスターデザイン入選／古澤杏奈●真玉海岸サンドアートコンテストゆうひ賞&ヴィラフロレスタ賞／デザイン専攻ビジュアルデザインコース学生●赤い羽根ボールペンデザイン／瀧本花梨、徳原佳乃子、村田澪矢、興梠華菜、松本智明、前畑侑紀、髙畑香奈

【音楽科】

●別府アルゲリッチ音楽祭「室内楽マスタークラス」／中村匡希〈ヴィオラ〉、佐藤蘭〈チェロ〉●第16回さくらびあ新人コンクール審査員特別賞／高橋依杏〈ピアノ〉●第6回横浜国際コンクール第2位〈1位該当なし〉／齊藤芙友子〈声楽〉●第68回全日本学生音楽コンクール北九州大会〈声楽〉第2位／齊藤芙友子、入選奨励賞／藤延二平、入選／佐藤克彦、矢野依子●第42回大分県音楽コンクール〈声楽〉第1位及び特賞／佐藤克彦、第2位／上田愛〈ピアノ〉第1位／小田弥生、中川千尋、第3位／加藤詩乃、奨励賞／大橋奈菜〈管楽器〉第1位／山下優輝●第31回香川音楽コンクール〈声楽〉第2位／泉紗貴●第6回東京国際声楽コンクールファイナリスト／矢野依子、佐藤克彦、セミファイナリスト／磯田健太郎、泉紗貴●第11回中津Andie Musikピアノコンクール第3位／藤田祥●第24回日本クラシック音楽コンクール全国大会第5位／吉元優喜乃〈ピアノ〉、第5位／大場日香里〈テューバ〉●第20回記念宮日音楽コンクール管楽器一般部門最優秀賞／山下優輝〈クラリネット〉

※スペース上、部門等は割愛しています。

【国際総合学科】

●ハングル能力検定試験受験者18名全員合格／国際総合学科学生　5級11名、4級9名、3級1名、2級1名(併願あり)●赤い羽根ボールペン募金活動／和田眞歩、落合理沙、田村沙也香、武津春花●OITA学生提言フェスタ優秀賞／晏佳雯

【情報コミュニケーション学科】

●おおいた教育の日エッセー優秀賞／古園千紘●赤い羽根ボールペン募金活動／首藤逞香、寺次真紀●ピアヘルパー資格筆記試験受験者35名全員合格／情コミュ学生●秘書技能検定試験1級合格／植村あゆみ●森のスイーツコンテスト準グランプリ／大土由貴、町田七海、森彩奈、牧野彩夏

表紙の顔

本広報誌の表紙モデルは、各学科から"頑張っている学生"にスポットをあてて撮影してきました。今年度最後の号となる今回は、昨年の3月より中国・江漢大学から留学していた晏さん、郭さん、史さん、曹さん、熊さん、劉さんに登場してもらいました。6人は、国際総合学科での授業をはじめ、日本語能力試験に向けて1年間、勉学に励みました。6人からのメッセージが伝わる、心温まる表紙となりました。

学長コラム

将来への希望

中山 欽吾

似顔絵：学長秘書 佐々木優季

2015年が始まったと思ったら、あっという間に2月になりました。例年のように卒業式、入学式が目前に迫ってきて、皆さんもこれから進むべき道を意識せざるを得ない時期だと思います。

さて、今年は入学式をグランシアタで行うことが決まっています。本学と協力協定を結んでいる県総合文化センターには4月24日に新美術館(OPAM)がスタートし、本学にとってはホールと並んで「知のアリーナ」とも言える、文化芸術面での発表や鍛錬の場ともなることが期待されています。今までも、音楽科は音の泉ホールやグランシアタで演奏会を行ってきましたが、今後は美術科も、卒展などを新美術館で行う予定ですので、今後ますます連携を深めていく上で重要なステップになるでしょう。

一方、今年は、本学キャンパスでも久しぶりに大きな話題があるのです。それは、建設以来45年となる芸術関係の建屋が老朽化して、雨漏りや教室内への浸水など、限界まできているのに対応するリニューアルが検討されているということです。老朽化の進んだ棟の建て替えや、保修繕などに加えて、ホールの新設も計画に盛り込まれる予定です。授業をできるだけ妨げないように慎重な工事が必要で、工事が始まると数年はかかることになりますので、実現に向けて慎重に検討を進めているところです。この工事が完成の暁には、見違えるような校舎となることが期待され、本キャンパスは面目を一新することになります。また、同じキャンパスに芸術系学科を持つ県立高校が併設されている、他のどこにもない特長を活かし、交流を深める工夫をすることで、高大連携を更に推進することも期待されています。

さまざまな地域貢献活動を行っています！

本学では、学生が社会で活躍する上で必要な知識である“社会人力”を高めるとともに、
地元の方たちに役立つ大学であることを目指し、さまざまな地域活動を行っています。

◉九重町でコンサートを開催

九重町とのタイアップ企画で、弦楽器に打楽器を加えたアンサンブルメンバーは、昼間は淮園小学校で子どもたちに、夜は九重文化センター・ホールで地域の人たちを対象に演奏会を実施。日ごろ聴けない弦楽器の妙なる調べを、ゆっくり楽しんでいただきました。

◉大分駅前の地下道を“アート空間”へ！

大分市観光協会から「公共空間を利活用し、アートによるまちづくりを推進したい」との依頼を受け、美術科メディアデザインコースの上野莉子さんがオリジナルで考案した“ナーブグリフ”という象形文字を使って聖徳太子の「十七条の憲法」を表現した作品を展示しました。

◉美術館で演奏を披露しました

閉館後の大分市美術館で「オカリナとビウエラの調べ～有元利夫の作品とともに～」と題したコンサートを行いました。当時開催中だった「有元利夫展」に連携したイベントで、音楽科 小川伊作教授がビウエラを、本学でフルートを専攻した坪内千恵美さんがオカリナを披露しました。

◉地域ふれあいアート講座

「地域ふれあいアート講座」は、2005年から毎年、県内各地の小学校を中心に取り組んでいるもので、子どもたちに創作の喜びや楽しさを味わってもらい、造形美術に対する興味や子どもたちの持つ感性を引き出すことを目的としています。

◉世界記録チャレンジに貢献しました！

世界一長いお祭りのヘビをつくり世界記録に挑戦しようという「ギネスに挑戦アートプロジェクト」。11月30日に見事、世界記録を達成しました!本学では、学内で3回、竹田で2回、臼杵、佐伯で1回の制作ワークショップなど、多くの活動に参加しました。

◉赤い羽根共同募金活動を行っています！

共同募金会が新たな募金手法として行う“寄付金付き商品”の取り組みで、これに賛同した本学学生有志が『赤い羽根応援プロジェクト』を結成。ボールペンのデザインを専攻科造形専攻と美術科デザイン専攻の学生が担当し、国際総合学科と情報コミュニケーション学科の学生らが募金活動を行いました。この活動は、昨年に続き2回目となります。

恩師からのお別れの言葉

今年度で退職される先生方に、お言葉をいただきました。

国際総合学科

教授：**入野 賀和子**

大分に来て23年、私にとって大分は第二の故郷になりました。この23年の間に、国際文化学科から国際総合学科へ、そして芸文短大自体も大きく変わる過程を見てきました。時代とともに変えるべきもの、変えるべきでないもの、考え続けた日々でしたが、今振り返ると、充実した教員生活だったと思います。これまで多くの学生を送り出してきましたが、今度は皆さんに送り出される立場になりました。未来を担う皆さんには、恐れることなく未知の世界に挑戦していって欲しいと思います。ガンバレ、ガンバレ！これからも皆さんを応援していますよ。

国際総合学科

准教授：**野坂 昭雄**

4月から、山口大学の教員となります。芸短の教員として大分に来てから、早いもので15年になりました。地元・鳥取から東北地方の大学に入学する時も、東北から大分に赴任する時も、自分一人の移動でした。しかし、今回は家族を連れての引っ越しとなります。生活の大きな変化を迎え、今は不安でいっぱいですが、大分での楽しい思い出を胸に、山口でも頑張りたいと思います。芸短の素晴らしい学生さんたちのこと、決して忘れません。本当にありがとうございました。

国際総合学科

准教授：**周 鳴**

光陰矢の如し。一年の大分生活があっという間に終わってしまいました。この一年間、教職員の方々のお助けと学生の皆さんのご協力のおかげで、非常に充実で楽しく、一生忘れられない思い出がたくさんできました。皆さん、謝謝！芸短生活が終わって、芸短と友好関係を持つ江漢大学に戻りますが、チャンスがあったら、ぜひ皆さんと中国でお会いしたいと思います。皆さん、再見！最後に、芸短のご繁栄のことと皆さんのご健勝のことを心よりお祈りいたします。

※派遣期間満了により、中国の江漢大学へ帰学されました。

情報コミュニケーション学科

教授：**下川 正晴**

楽しい8年間でした。「第二の青春だった」。そう言っても良いかな。「自分の可能性」に気づいていない学生たちに出会い、おだてたり、怒ったりしながら、「変身」する様子を間近で見てきました。芸短大には「化ける学生」が多いんだよ。知ってましたか？伝えたいメッセージは「世界は広く、やることは多い」。生き抜く戦略は「段取り力と集中力」。そうすれば「必ず一つは、やれることが見つかる」。困った時には、またFacebookで連絡してください。アンニョン！

〒870-0833 大分市上野丘東1-11　TEL 097-545-0542　HP http://www.oita-pjc.ac.jp